

東武鉄道における 高架化工事他の現状

竹ノ塚駅付近連続立体交差事業
清水公園～梅郷間連続立体交差事業
とうきょうスカイツリー駅付近連続立体交差事業

六実～逆井間複線化工事

Vol.7

東武スカイツリーライン竹ノ塚駅付近連続立体交差事業では、平成29年8月26日(予定)の終列車後に下り緩行線の線路切替を行います。これに伴い、翌27日(予定)の初列車から駅の改札・ホームの位置、踏切の形態が変わります。改札口は仮設地下自由通路内に移り、下り線ホームと上り線ホームは別々になり、踏切は下り緩行線と上り急緩行線に分割します。

東武アーバンパークライン清水公園～梅郷間連続立体交差事業では、愛宕駅周辺～野田市駅間で工事が進捗しています。愛宕駅周辺では、現在仮線の路盤工事、仮ホームや仮上家等の工事を進めています。また愛宕駅～野田市駅間では仮線切替に向けた路盤工事等を実施しています。

また、とうきょうスカイツリー駅付近連続立体交差事業が本年6月に東京都知事より事業認可を受け、7月に墨田区と施行協定を締結しました。本事業は平成36年度末の完成に向け、今年度から工事着手の予定です。

これらの連続立体交差事業は、それぞれ足立区や千葉県、墨田区が施行する都市計画事業であり、東武鉄道はこれに協力して工事を推進していきます。

さらに、東武アーバンパークライン六実～逆井間では複線化工事に昨年より着手しており、所要時間の短縮等輸送サービスの向上を目指し工事を推進しています。

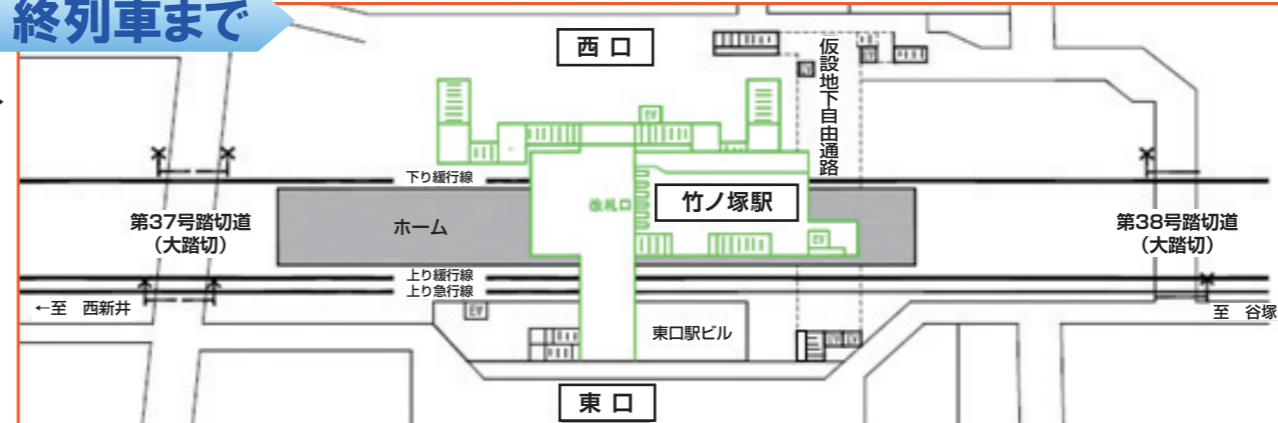
いずれの工事も、ご利用になるお客様、沿線にお住いの皆様には何かとご不便、ご迷惑をお掛けしますが、安全最優先で早期完成を目指しておりますので、何卒ご理解賜りますようお願いいたします。

竹ノ塚駅付近連続立体交差事業の進捗状況

竹ノ塚駅では、下り緩行線の線路切替により
平成29年8月27日(予定)から **駅入口・改札口・ホーム・踏切** が変わります!

平成29年8月26日 終列車まで

切替前 現況図 ▶▶▶



※下り急行高架線は省略

平成29年8月27日 初列車から



① ホームトイレ

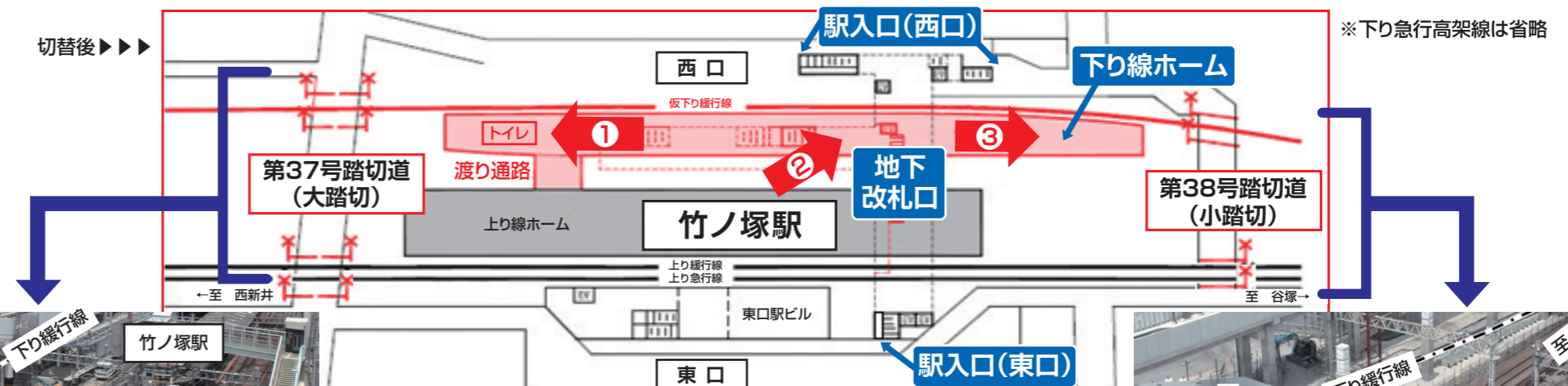


② 改札内エレベーター

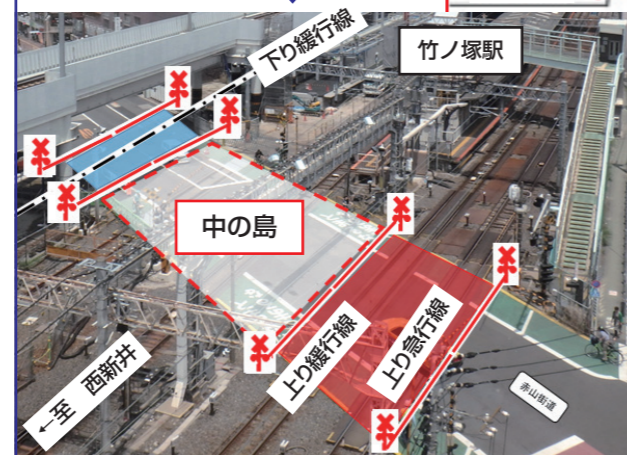


③ 下り線ホーム

切替後 ▶▶▶

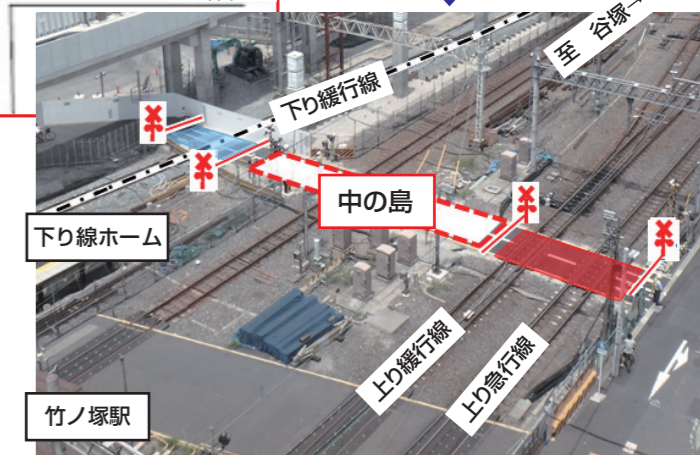


※下り急行高架線は省略



現在、第37号踏切道(大踏切)と第38号踏切道(小踏切)では踏切警報機・遮断機がそれぞれ線路の外側に設置されておりますが、下り緩行線の線路切替により、踏切を渡る距離が長くなるため、踏切警報機・遮断機を下り緩行線用上り急緩行線用に分けて設置します。

両線の遮断機間に“中の島”ができますが、自動車にて通行する場合には、踏切の先にスペースがあることを確認してから、踏切内に進入してください。また、踏切が鳴り始めてからの踏切横断はしないようお願いします。



清水公園～梅郷間連続立体交差事業の進捗状況

愛宕駅周辺では仮駅の供用開始に向けて、仮線路盤工事、仮ホーム上家等の工事を進めています。
また愛宕駅～野田市駅間においては仮線切替に向けた路盤工事等を実施しています。
今後は順次、軌道や電気関係の工事を進めていきます。

① 仮 跨 線 橋

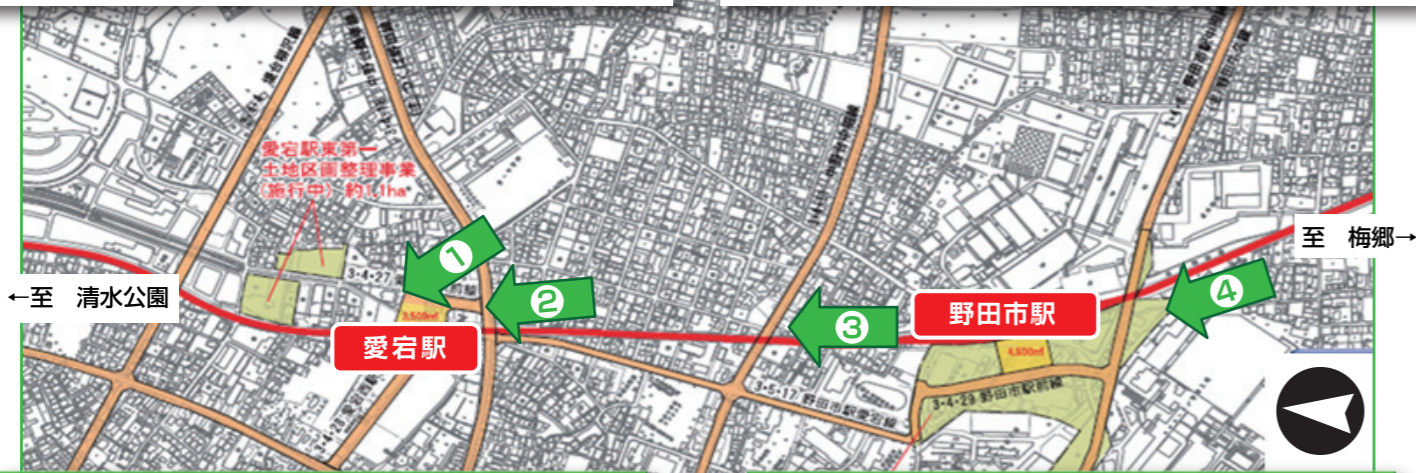


仮駅の跨線橋が見えてきました(愛宕駅)

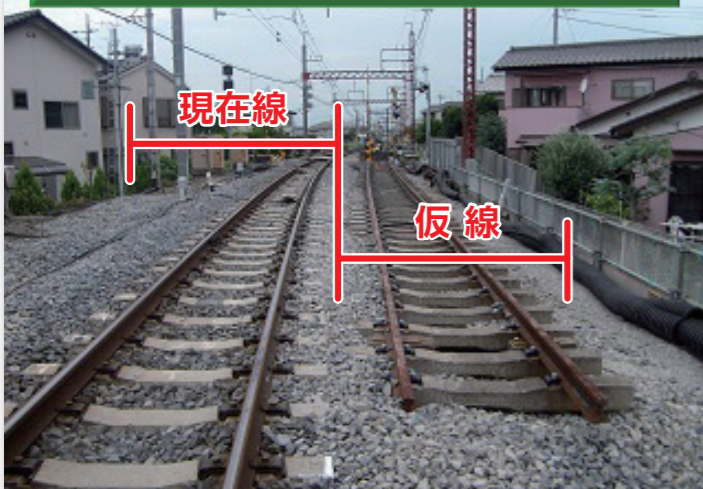
② 仮ホーム・仮ホーム上家



軌道工事、電気工事等を進めていきます(愛宕駅)



③ 仮 線 軌 道 工 事



仮線の軌道を敷設しています(愛宕～野田市間)

④ 高 架 橋 新 設 工 事



清水公園方、梅郷方の高架橋工事を進めます

とうきょうスカイツリー駅付近連続立体交差事業に着手

東武伊勢崎線(東武スカイツリーライン)「とうきょうスカイツリー駅」付近の約0.9km区間の連続立体交差事業において、墨田区との施行協定を本年7月7日付で締結し事業に着手いたします。

鉄道の高架化により1か所の踏切が除却され安全性が向上するほか、鉄道により分断されていた市街地を一体化することにより総合的なまちづくりを図るもので、平成36年度の完成を目指します。

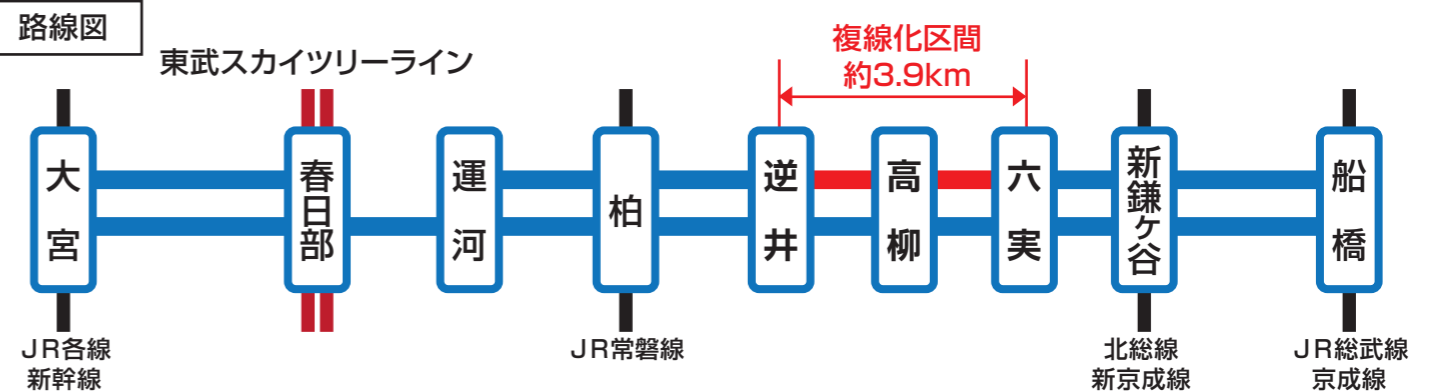
また、この高架化により、とうきょうスカイツリー駅が改築され、よりご利用しやすい駅に生まれ変わる予定です。



六実～逆井間 複線化工事の進捗状況

東武アーバンパークライン六実～逆井間の約3.9kmの複線化工事に昨年より全区区で着手しており平成31年度末の完成を目指します。

現在は高柳駅の構内改良工事や複線のスペースを確保するための工事等を実施しています。



六実～高柳間



高柳～逆井間



この印刷物は、適切に管理された森林からの材料を含むFSC®認証紙を用いて「森林資源保全」に、石油系溶剤の一部を植物油に置き換えたインキを用いて、「大気保全」に配慮しており、グリーン基準に適合した印刷資材を用いて、GP認定工場で印刷しています。またこの紙は印刷用の紙に再生できます。